

- 学長インタビュー 2～3
- 先生方からのメッセージ 4～6
- 会員だより 7～8
- 2021年度会計報告 9
- 進路状況・基金のご協力とお願い 9
- 役員紹介 10

森の会設立20周年 記念講演会を開催!



中村梧郎氏 (元 地域科学部教授)

フォトジャーナリスト 中村梧郎氏が語る 「地球環境、どうすればいいのか」



1976年、枯葉作戦の行われたカマウの森に立つ少年

2021年10月10日(日)、森の会設立20周年記念講演会がオンライン配信形式にて開催されました。地域科学部で教鞭をとられたフォトジャーナリスト中村梧郎先生をお招きし、「地球環境、どうすればいいのか」と題した講演会は、同窓生・関係者のみならず一般からも多くの参加者がありました。思い起こせば2019年に企画が始動した記念行事ですが、本来予定していた2020年はコロナ禍初年度ということもあり開催を断念せざるを得ませんでした。しかし、今回は当初より「ウィズコロナの情勢下で、どうしたら開催できるか」という観点から役員会で打ち合わせを重ねつつ計画を進め、オンライン配信やウェブ申し込みといった手法も取り入れることにより無事開催することができました。

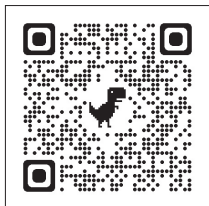
講演では中村先生の長年にわたる独自の取材と知識をもとに、現在起きている感染症、脱炭素の動きなども絡めて幅広くお話しいただき、その後は活発な質疑も行われました。後日、参加者からは「大変勉強になった」「改めて生活の周りにおける環境問題を見つめなおしたい」「大学時代を思い出し懐かしくなった」といった感想も届いています。

中村先生、参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



会場のグランドホテルでのオンライン配信の様子

当日の動画を
限定公開します!



森の会ニュースvol.20をご覧いただいている皆様に、2022年12月31日までの期間限定で当日の動画を配信します。QRコードよりご視聴ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=8Q-DEwngo4s>

今年4月、第13代岐阜大学長に就任された吉田和弘先生に、地域科学部と岐阜大学への思いを伺いました
聞き手：浅井彰子、伊藤健人（取材：2022年7月5日）

広島から岐阜へ

—岐阜大学着任のきっかけは？—



今期より岐阜大学長、並びに東海国立大学機構大学総括理事・副機構長に就任致しました、吉田和弘です。私が岐阜へお邪魔して、今年で15年になります。その前は地元・広島大学で、腫瘍外科医として勤務してお

りました。「癌に苦しむ患者さんを救いたい」その信念のもと、当時の恩師の勧めもあって岐阜大学の消化器外科教授職に応募。運良く認めて頂いて、現在に至ります。私の外科医としてのキャリアは、岐阜大学で育ててもらえた部分が大きいです。

この15年は謙虚に、真摯に患者さんにも仕事にも向き合ってきました。2018年からは病院長として、特にこの2年はコロナ禍の中で、地域医療の連携中枢としての役割を果たすべく、スタッフ一丸となって奮闘してきました。歴史ある岐阜大学の長、しかも名古屋大学との連携を更に発展させ世界と地域に貢献できる機会をいただけ大変ありがたいです。外科医として「生老病死」人が生きる根源の苦しみを除く形で社会貢献出来ていたなら、嬉しい限りです。大変光栄であり、今後も益々努めなければと、身の引き締まる気持ちです。

「総合知」と「仁徳」

—地域科学部に期待することは？—

地域科学部は地域問題の解決、地域社会発展の担い手となる人材育成を目的とした、日本で初めて「地域」の名を冠した学部です。その理念に共感されて、学部新設から今日まで沢山の方が学ばれ、卒業後は様々な方面で活躍されています。皆さん「地域に貢献したい」という確固とした目標をお持ちで、本当に熱意を持って学ばれています。私も学長就任以降、それまでの医師としての専門領域を深める学びとは別に、人材育成・地域創生について知見を広げる学びを続けています。ですから学部の方々の学びに対す

る姿勢には、見習うことばかりです。

この地域科学部は、岐阜大学と名古屋大学が互いに高め合い、世界に通用する人材を育成する為に非常に重要な役割を果たすと考えています。

地域科学部の特色として、非常に幅広い分野を学ぶことが挙げられます。社会が発展するためには専門家ばかりではなく、分野の垣根を越えて活動する、周りを巻き込み進む方向を示す旗振り役の人材が必要です。そこで同学部では地域社会への貢献を目的として、多様な分野の知識、広い視野を身につけるカリキュラム構成となっています。人が本来の意味での生きる力「総合知」を養うという点において、地域科学部は適した環境です。

「総合知」を持って地域の問題解決に当たる時、その基礎を支えるのは「仁徳」であって欲しい。問題解決に真剣に取り組む時、「助けたい」「役に立ちたい」という熱意は、人としての徳から出るものと思います。私の医師としての経験でも、目の前で苦しむ人を救うために必要なのは知識・技能は当然として、相手に寄り添う「心」でした。これは何方かが欠けてもいけない、二つがそろって価値のあるものです。

「総合知」と「仁徳」を備えた人材育成、地域科学部はそのためのコンポーネントも既にたくさん持ってみえる学部です。是非学びを通して、学部を越え岐阜大学や名古屋大学の枠をも越えて、人も地域も巻き込んでより良い方向へ導く活躍をしていただきたいと期待しています。



岐阜大学 本部棟 学長室にて

岐阜大学の強み

—大学が地域創生に果たす役割は？—

岐阜大学の強みは、人の営みに不可欠な5つの要素すべてに対応できる点です。まちづくり (Migration)、ものづくり・食づくり (Laboratory)、医療づくり (Innovation)、

ひとつづくり (Education)。この持ち味を活かした地域創生に注力することで、研究環境としても生活する場としても魅力的な地域になる。結果として優秀な人材に岐阜を選んで貰える良い循環が生まれるというのが、私が学長就任時に提唱した「ミ・ラ・イ・エ構想」です。もちろん、この構想実現のためには大学の力だけでは及びません。「産学官民」。産業、大学、行政、何より地域に生活する人々すべてが一丸となって地域創生に尽力することが必要です。

そこでの大学の役割は各分野の橋渡し、働きかけをすることです。「総合知」とは、何も個人が持つ知恵のみを指す言葉ではありません。「この分野については、あそこが一番秀でている」、「あの業界とこの業界が連携すれば、より良い結果に繋げることができる」。互いの得意を持ち寄り一つの目標に向けて力を合わせる、そのための気付きを与えられるというのも、地域創生に繋がる力だと考えています。

地域中核大学のトップレベルを目指して —岐阜大学のビジョンをお聞かせください—

前任の森脇先生が名古屋大学との統合を決断されて、岐阜大学がより素晴らしい発展をする道筋をつけて下さいました。私の代の6年間に、その真価が問われると言っても過言ではないでしょう。地域中核大学のトップレベルを目指すこと、それが私が掲げる岐阜大学の方針です。

地域中核大学として、揃えるべき基本的コンポーネントは3つあります。ひとつは、強みのある特徴があること。もうひとつは、産学連携を確立していくこと。そして最後に、自治体との連携を図ること。この3つを満たす要件が、既に動き出しています。

具体的には、研究拠点の整備。世界に通用する研究拠点として4つの拠点を企画、進行中です。この内の一つ、糖鎖生命コア研究拠点は国家プロジェクトとして海外の研究機関とも連携し、1段階上のレベル認定を受けようとしています。近日中に動きがあるはずですので、ご期待下さい。それ以外にも医療健康データの統合研究拠点、スマート農業を主軸とした農学拠点、岐阜のお家芸である航空宇宙研究教育拠点と、どれ一つとっても世界最高水準の研究展開が出来る拠点整備を進めています。

将来的には岐阜大学や周辺に留まらず、岐阜を飛び出して東海一円の地域創生中核拠点となるよう、構想を拡げていきたいと考えています。近い例を挙げるなら2027年までに岐阜大学近郊に移転されてくる岐阜薬科大学、ここを中心としたライフサイエンス拠点を整備することも考えられます。実現するなら岐阜市、岐阜県、他大学や企業にも参加していただける、正に地域を挙げた産学連携の場となるでしょう。

岐阜は自然豊かで、航空宇宙産業、農業などのポテンシ

ルに溢れた土地です。それを支える教育、産業、行政が連携を図り、「オール岐阜」で考えていけるよう、働きかけていきたいと考えています。

さいごに

—地域科学部へのメッセージをお願いします—

大学での学びは、自身の夢を実現するための力を養うものです。学部のカリキュラムにとどまらず、是非それぞれのテーマを持って自由に学んで頂きたいと思います。

学ぶきっかけというのは本当に些細なことですし、何が役に立つか、どこで繋がるかは誰にもわからない。ですから常に貪欲に学び、アンテナを立ててチャンスを逃さない姿勢で臨んで下さい。少しでも興味を持ったなら迷わず飛び込み、力をつけて欲しい。飛び込んだ場所で人と関わり、時に衝突することもあるでしょう。しかし、そうした経験は人格の角をぶつけ合って丸くなる事、人としての成長に繋がります。それこそが「総合知」、「仁徳」を育むことです。真の意味で、生きた学問を続けて貰いたいと願っています。

皆さんが安心して学べるよう、執行部一同サポート体制を用意しています。進行中のプロジェクトも地域科学部はもちろん、全ての学部が活躍できるものばかりです。学びを活かし学部を越えて、大学、地域をも越えて活躍して頂きたい。人として、地域の一員として、皆さんが魅力ある人間に成長されるよう祈っております。



左から 伊藤幹事長、吉田学長、浅井会長

—インタビューを終えて—

岐阜大学附属病院長でいらした頃から吉田先生を存じ上げておりますが、ダジャレがぼんぼん飛び出す気さくなお人柄は学長に就任されても変わりません。スピーチもとびきりお上手です。

それもそのはず、小さい頃から落語がお好きで、よく人を笑わせていらっしゃったとのこと。お話の間の取り方も落語を聞いて身につけられたとか。

岐阜は落語にゆかりの深い土地柄です。いつか、学長先生の落語を拝聴する機会に恵まれますように。

浅井彰子

先生方からのメッセージ

地域科学部はどういう学部か

学部長 ● ^{うちだ まさる}内田 勝 教授

今年度および来年度の地域科学部長を務めている内田勝です。専門はイギリス文学および文化研究です。よろしくお願いたします。

学部長になると、全学共通教育の「岐阜大学の教育研究と運営」（前学期月曜 1 限）という講義を 1 回だけ担当しなければなりません。これは岐阜大学の各部局の部局長が毎週代わる代わる出てきて、自分の部局の「教育研究と運営」を解説する授業です。受講生は 50 名ほどで、地域科学部も含めてほぼすべての学部の学生が数名ずつ参加しています。

私は「地域科学部はどういう学部か」というタイトルで講義を行いました。AIMS-Gifu(岐阜大学のeラーニング用ウェブサイト)に私が置いた授業資料を読んで受講生がコメントを書き込んでいく、オンデマンド型のオンライン授業です。

授業資料の中で私は、地域科学部の理念や歴史を簡潔に説明しようとしていました。地域科学部が 1996 年に日本で最初に「地域」という名称を冠して設置された地域系学部であり、地域社会と人間文化が抱える課題の解決を図るために、人文・社会・自然科学の多様な専門領域による文理横断的・学際的な教育研究を行っていること。卒業生には公務員になる人が多い一方で、地元企業を中心に、金融・保険業、卸売業、小売業、製造業など、幅広い業種に就職していること。2018 年には岐阜大学の「経営学部」設置計画に伴って地域科学部廃止問題が勃発したこと。しかし卒業生や地域の人々に助けられ、どうにか学部廃止は免れたこと。ただし学部が置かれた状況は依然として厳しく、過去 6 年の間に専任教員数の 3 割近くが削減されてしまったこと……。

受講生からのコメントは、地域科学部の教育内容に好意的な評価をしているものがほとんどでした。もちろん地域科学部長が読んで採点するわけですから、地域科学部に対する批判的なコメントは書けないでしょうが、私には彼らの感想が単なる社交辞令とは思えないのです。いくつか特徴的なコメントを引用してみます。

〈地域科学部は街づくりをする学部だと思っていたので専任教員の学問分野の広さに驚いた。中には理系の学問も

あって学べる学問分野の広さはかなり特徴的だと思った。〉

講義資料に専任教員一覧と卒業論文タイトル一覧へのリンクを張っておいたおかげで、学部の特徴をうまく伝えられたようです。卒論についてはこんなコメントもありました。

〈「2021 年度卒業論文タイトル一覧」を見て初めに思ったのは、「本当に同じ学部の人が書いた卒業論文なのか」ということです。それほど多種多様なタイトルで、とても興味を引き付けられました。〉

地域科学部の受講生の一人からは、こんなコメントをもらいました。

〈講義内で『将来の仕事は公務員がいいかなと思うから…』といった漠然とした動機で入学した学生が、実際に授業を受けるうちに特定の学問分野の面白さに目覚め、いわばその学問の『沼にはまる』といった現象がしばしば生じます」とあるが、今の私は「沼にはまりかけている」という状態が合う気がする。地域科学部なしには、今の自分は存在し得ないだろうと痛感する。〉

国立大学の(ドラッカー的な意味での)「顧客」は誰かという話もちよっとしたのですが、こんなコメントがありました。

〈国を顧客として捉えたときに重要視されるのは「目標とする数値を定め達成する」であり、国立大学が運営を続けるには無視することができないが、文科省が定める規定を達成することだけに集中するのではなく、「学生」を顧客としたときに必要とされるような、何かにとらわれずに自分の興味を突き詰められる環境も十分に提供できるように余裕のある大学運営ができるようになればいいなと思った。〉

私も同感です。学生にとって楽しい学部を維持していけるよう、私たち教職員は今後も努力していこうと思います。



定年退職された先生方

2022 年 3 月 31 日付

富樫 幸一 教授 (地域政策講座 経済地理学)
松尾 幸忠 教授 (地域文化講座 中国古典文学)
稲生 勝 教授 (地域文化講座 科学哲学)
ラッセル, ジョン・ゴードン 教授 (地域構造講座 文化人類学)

新しく着任された先生方

2022 年

小林 亜由美 助教 (地域文化講座 英米文学)
府川 純一郎 助教 (地域文化講座 社会哲学)
峰尾 菜生子 助教 (地域構造講座 心理学)

公正な社会の実現に向けて

2021年4月に着任した甲斐智大と申します。専門は地理学で、地域労働市場について研究を行ってきました。とりわけ都市部で課題となっている保育士不足の問題に焦点をあて、地方出身保育士がいかなるメカニズムで都市部の保育所に就職するのかについて研究してきました。

研究の結果、財政的に厳しい状況にある地方では、保育士に支払われる給与水準も低水準に留め置かれていることが明らかになりました。加えて、他の就業機会に恵まれない地方では保育士が女性職として一定の地位にあり、低賃金でありながらも自宅からの通勤を前提に、地元の保育所への就職を希望する者が多くみられます。結果として、地方の保育所では低賃金が維持される状況にあるのです。

一方、都市部では保育サービス需給のミスマッチが深刻化しており、多くの企業が認可保育所の運営をはじめています。しかし、都市部の保育労働市場では古くからの保育所が優先的に地元の保育士を獲得できる構造が成立しており、企業が運営する保育所は深刻な保育士不足に悩まされています。そのため、保育所を運営する企業は採用コストをかけて遠隔地からの保育士採用に力を注いでいます。また、これらの企業は都市部のなかでも

地域政策講座(地理学) ● 甲斐 智大 助教

か い ともひろ

保育サービスが不足する地域での保育所を増設させています。採用コストをかける必要のある企業保育所での賃金水準は低水準にならざるを得ず、地方出身保育士が低賃金のなかで保育サービスを担うことで、都市部における公正な保育サービス供給が実現しているのです。



地理学ではニーズに合わせてサービス供給がされている状況を「地域的公正」な状態と理解します。しかし、その背後には地域内での権力関係や地域間格差の問題が内包されています。また、こうした問題は統計上の数値には表れにくく、関係者の声に耳を傾けることで明らかになるのです。そこで、私は地理学の講義や専門セミナー、地域学実習を通して、一見すると公正であり、理想的とされる現実について、関係者の声に耳を傾け、客観的に考察することで、不当な権力関係やそれによって生じる地域間関係がみえてくることを伝えていきたいと思っています。

文学の多様性

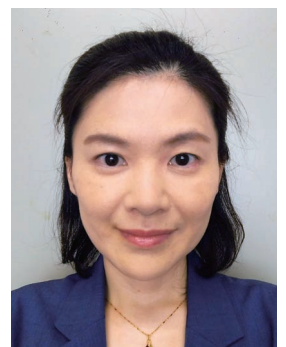
2022年3月に地域科学部に着任しました小林亜由美と申します。専門分野は英米文学です。ウィリアム・フォークナーの『八月の光』や、F・スコット・フィッツジェラルドの『グレート・ギャツビー』、アーネスト・ヘミングウェイの『日はまた昇る』といった作品に代表される、20世紀前半のアメリカ文学作品を中心に、社会における文化の形成や、その受容について研究しています。また、同時代にイギリス人によって編纂された、アフリカ系アメリカ文化についてのアンソロジーも研究対象で、そこに収録されている、セオドア・ドライサーやゾラ・ニール・ハーストン、アラン・ロックらが寄稿したエッセイの考察等を進めています。

授業は、初年次セミナー、専門セミナー、応用英語、アメリカ文化論、表象文化論を担当しており、プレゼンテーション等の実用的な英語の運用や、文学を主な題材として、作品解釈や文化表象の話し合いを行います。小説の作品読解に取り組む授業では、小説技法や批評理論等が詳述された文献を輪読し、受講生各人が選定した

地域文化講座(英米文学) ● 小林 亜由美 助教

こばやし あゆみ

小説について、テキスト、歴史、文化等、様々な視点からの読解を試み、その作品解釈をクラスで話し合います。作品の分野を限定しない授業では、小説の選定から議論までが様々で、多くの作品との出会いや、新たな発見が得られることも少なくありません。



専門セミナーでは、パール・バック、バーナード・マラマッド、ジョン・スタインベックといった、アメリカ人作家による文学作品の短編を中心に精読し、各人の視点から議論を進めます。映像化されている小説は、その映像視聴も取り入れ、視覚的にも物語の世界を鑑賞することで、内容の解釈が深まり、発展的な思考や議論へとつながるでしょう。時代やジャンルを問わず、様々な作品について語り合えればと思います。

理想の社会を考えながら

2022年4月に地域文化講座に助教として着任しました府川純一郎です。

専門は「社会哲学」で、これは社会を構成している価値観、規範、文化、制度など、それらの形成過程や本質について哲学的に考える営みです。社会は常に変動し、ときとして深刻な問題や矛盾すら抱え込みます。そこで現行社会にある種の批判的な考察を与え、あるべき理想の姿や、それを実現する方法について考えるのも、この社会哲学の課題です。

と書くと「なんだか凄いことをやっている人が来たなあ」と思われるかも知れませんが、素直な自己認識を申し上げれば、興味の幅が無駄に広く、大学院に入ってからも特定の専門に腰を据えられないまま、単に社会学と哲学を広く浅くやってきただけの人間です。おまけにあるとき、「理想的な社会への糸口は、自然との理想的な関わりにあるのではないかと」と、妙な靈感が落ちてきてしまい、自然美学や生命倫理学にまで手を出す有様で、今でも自分が何をやっているのか、時々分からなくなります。

しかし、そんなところが古き良き教養の伝統を汲む、

地域文化講座(社会哲学) ● 府川 純一郎 助教

ふかわ じゅんいちろう



この学部選ばれた理由かも知れませんが、学生は私以上に気が多く、広い視野から、さまざまな関心を寄せてくれます。後期からの専門セミナーにも、平和論、承認論、動物倫理学、障害者の平等論、日本の美徳論、などなど、色とりどりのテーマを持った学生が、駆けつけてくれました。

面接の前日に、この地を踏んだときのことは忘れもしません。名古屋との近さに驚き（特急で行こうとして駅員に呆れられた）、峻厳な山々と美しき清流に心打たれる一方、柳ヶ瀬や繊維問屋街の光景からは、覆い隠せぬ地方都市の疲弊と困難を感じました。ここで自然や社会、地域について考えられるなら、なんと意義深いことだろうと思ったのです。

晴れて、身に過ぎる大役を仰せつかりました。これからも日々、精進して参ります。

地域科学部で心理学を探究する

2022年4月より地域科学部に着任した峰尾と申します。専門分野は、心理学(発達心理学、社会心理学)です。これまでは、主に「大学生の社会観の特徴と形成要因」をテーマに研究してきました。個人が現在の社会をどのように見ているのか、その個人が社会のなかでどのように生きていこうとしているのかに関心をもっています。岐阜にはこれまでほとんど縁がなく右も左もわからぬ状態で着任しましたが、先生方や職員の皆さまに、授業や学生対応、設備、地域のことなどさまざまな面でご助言をいただき、何とか生活のペースができてきました。

今年度は、「教育・心理学」「基礎セミナー」「専門セミナー」の授業を担当しています。感染対策をした上で、グループワークや自分の経験を振り返るワークなどを行っています。授業をしてみて、地域科学部の学生さんはグループでの話し合いがぱっとできるなあという印象をもっています。

学生たちと話していて、心理学は多くの人にとってとっつきやすい学問なのだなと改めて思いました。自分について知りたい、コミュニケーションをうまくとるにはどうし

地域構造講座(心理学) ● 峰尾 菜生子 助教

みねお なおこ



たらよいのか、親が子に与える影響はどのようなものか…など、人の心の動きに関する学問は、身近に関心をもちやすいといえます。

その反面、「心理主義化」と批判されるように、あらゆる問題を個人の内面の問題にしてしまう（そのように使われてしまう）危うさも、心理学にはあります。たとえば、コミュニケーションは人と人との関係の中で行われるものなのに、個人の能力や性格の問題に還元されてしまう、不安定な就労状況に陥るのは社会構造的な要因も大きいのに、「努力が足りないからだ」と自己責任にされてしまう…個人の内面に焦点を当てる学問には、そういった危うさも伴います。さまざまな分野を学ぶ地域科学部では、そのような心理学の危うさを乗り越え、より多面的に人間の心の働きを学生と探究していきたいと考えています。

会 員 だ よ り

第13期生(南出ゼミ) ひさまつ あやか 久松 礼佳

皆さま、こんにちは。2012年度卒業の久松礼佳と申します。

卒業して10年と言う節目の年に、学生時代を振り返る機会をいただき大変嬉しく思います。

私は岐阜で生まれ育ち、今でも地元で暮らしております。現在は、岐阜のケーブルテレビ局で主に人事、採用担当をしております。岐阜大学の学生企業展には毎年出展しています。年に一回、キャンパスを歩き、学食を食べるのが密かな楽しみです！ここ数年、当社で働く地域科学部の卒業生が増えてきて、社内に仲間が加わりとても嬉しいです。

在学中は南出ゼミに所属し、若者の自立支援や居場所づくりについて、フィールドワークを中心に学びました。南出ゼミ第一期生だったため、先生と共にゼミを創り上げていく過程がとても新鮮で楽しかったことを覚えています。

また、勉学以外では「学生団体岐阜人」に入り、フリー

ペーパー制作やイベント開催をしております。岐阜の大学生を対象に岐阜の魅力を知ってもらうため、毎週話し合いを重ね、企画を練り上げました。原稿の締め切り前夜には、事務所に集まり徹夜で作業をしたことも学生時代ならではの良い思い出です。一緒に活動していたメンバーとは、卒業した今でも仲が良く、定期的集まっています。バックナンバーは岐阜県立図書館に所蔵されているので、気になる方はぜひご覧ください！

地域科学部で過ごした4年間は、かけがえのない時間でした。これからも大好きな岐阜に貢献できるよう、学生時代に築いたご縁を大切にしながら、頑張っていきたいと思います。



第19期生(土岐ゼミ) まつの たかひろ 松野 貴弘

平成最後の卒業生です。地域科学部の足を引っ張っていた自分が歴史ある森の会ニュースの紙面を割くなど恐縮ですが、森の会幹事で土岐ゼミの先輩でもある後藤さんから話をいただきましたので寄稿します。

私は今、土地改良区という法人で農業用水を通水する仕事をしています。先般報道された明治用水頭首工の漏水事故では、同県の土地改良区職員として応援にも行ってきました。学生時代と比べれば、幾分地域の役に立っているのでしょうか。

地域科学部では多くのことを教えていただきましたが、思い出話として、僅かに記憶できたことの中から一つをシェアしたいと思います。

いよいよ卒業論文に取り掛からねばならないという時期でした。全共棟5階のゼミ室の窓は濃い闇で塞がり、蛍光灯の光を反射した先生の頭光だけが照り映えていました。

——卒論を書くにあたって毎年、学生諸君に3つの『かく』ことを要求している。ひとつはもちろん『文章を書く』こと。次に、現場まで足を運び、そこでも

に活動し『汗をかく』こと。そして、そのプロセスで自分の未熟さ・拙さを自覚し『恥をかく』ことである——

当時の私は「3つとも億劫だな」などと心の中で思ったものです。結局は、やや偏りはあったものの全ての課題を完遂し、4年間のモラトリアムに誇りを持つことができている。

当時の仲間やお世話になった方の多くは疎遠になってしまいましたが、皆さんの言葉は私の中に確かに在り、絶えず教えられています。

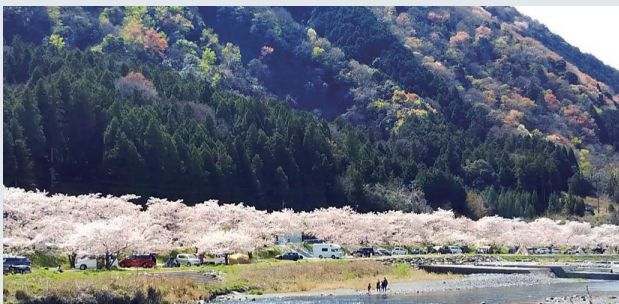


中津川で行った卒論報告会後の交流会にて、右が土岐先生

第21期生(柴田ゼミ) ながお あすか 長尾 明日香

梅雨入りのニュースを見ると、思い出すことがあります。夜になると聞こえてくるゲコゲコ声。雨上がりの朝のカエルの匂い。大学生まで暮らしていた地元岐阜での日常です。就職を機に県外に引っ越しましたが、いまだにあの匂いを忘れることはできません。4月で社会人2年目になりました。柴田ゼミ卒業生の長尾明日香です。

就職活動中、会社選びの軸は「岐阜県外で働けること」でした。カエルの鳴き声が嫌いだからではありません。地元にいる頃から四季折々の山の眺めや虫の声は気に入っていましたが、一度は地元以外の文化や暮らしを知



地元でお気に入りの岐阜県柏川河川敷に咲き誇る桜

りたかったからです。

そして今は岐阜を出て、新聞記者として働いています。新しい土地での生活は毎日が新鮮で、楽しいです。

ですが地元を忘れたことはありません。大学時代、岐阜の魅力を知ったと同時に抱える課題も学びました。高齢化が進み、病院の統廃合も進み、働き口が少ない現状が、「田舎暮らし」が注目され、大きく変わるのでしょ

うか。地方の問題と向き合いたいという思いは、忘れたくない、記者になった原点の一つです。各地ではどのように雇用を創出し、働き手を確保しているのか。住みやすい街づくりのために何をしているのか。今は岐阜の外から、岐阜にも通ずる課題を追っていき

たいと思っています。この先岐阜で暮らすことがあるかは分かりません。それでもどこかで先生方、同窓生の皆さんにお会いできたら嬉しいです。その際はよろしくお願



第21期生(牧ゼミ) なかむら まこ 中村 真子

地域科学部 2021 年度卒業生の中村真子と申します。在学中は牧秀樹研究室に所属しておりました。現在は自治体職員として、子育てに関わる業務に携わっています。

今回寄稿のお話をいただき、大学生活を振り返る良い機会となりました。改めて総括すると、私が大学で得た学びは、「常識」や「普通」とはいとも簡単に変わってしまうものであるため、こうであるべきという期待や先入観、常識を疑い、学びを通してそれを精査しなければならない、という点に帰結しています。

2019 年の秋に留学先から帰国し、年明けには世界が新型コロナウイルスの拡大に直面することとなりました。大学最後の年は、世界が大きく動いた1年であり、今もなおあちこちで数十年来の大きな変化が起きています。

大学では、疑問を起点とする様々な問題について、友人や先生方と議論を重ねました。当時は日常であったことが、社会人になった今、いかに贅沢であったかを

痛感しており、時には恋しくなることもあります。

しかしながら、この渾沌とした時代を生き抜くための考え方を手に入れ社会に出られたことは、例え現在の業務に直接関わりないとはいえ、普遍の強みとして非常に大きく、ふとした時の心の支えでもあります。また、好奇心と探究心を忘れることなく、学び続けることがなにより重要であると感じています。

岐阜大学で得た学びは、卒業した今でも確実に現在に生かされており、大変感謝しております。これからも日々の積み重ねを大切に、精進したいと思います。



2021 年度会計報告

自 2021年4月1日 至 2022年3月31日

●収入の部

(単位：円、小文字は内訳)

項 目	決 算 額
会 費 (10,000円×115名)	1,150,000
懇親会費	0
受取利息	1,201
その他	1,000,000
当期収入合計	2,151,201
前年度繰越金	730,231
収入合計	2,881,432

●支出の部

項 目	決 算 額
事業費	425,644
会報等印刷費	203,456
会報等郵送費	222,188
卒業・修了祝い金	0
事務費	422,756
人件費	374,010
事務用品費	1,929
通信費	43,577
その他	3,240
会議費	79,162
諸会費	0
役員会雑費	33,742
交通費	45,420
総会費	900,792
総会経費	0
懇親会経費	0
講演会	900,792
予備費	0
当期支出合計	1,828,354
当期予備費合計	0
支出合計	1,828,354

項 目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,881,432	1,828,354	1,053,078

●資産保管状況

項 目	現 在 高
現 金	0
普通預金	
十六銀行	1,053,078
ゆうちょ銀行	0
定期預金	
十六銀行	7,000,000
合 計	8,053,078

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

地域科学部及び地域科学研究科が更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献する責務を果たすために、ご寄附をお願いします。

この基金による支援事業は、1. 学生に対する学術交流協定校への留学支援、2. 教育研究活動に対する支援、3. 産学官連携及び社会貢献活動に対する支援、4. キャンパスの環境整備・充実に対する支援等としております。多くの皆様のご協力により、本学部・研究科の教育研究活動を支援し、もって地域社会の発展に貢献しうる学生を養成するために本基金を活用させて頂きたく存じます。

つきましては、皆様には本趣旨をご理解の上、格別のご支援を賜りたくお願い申し上げます。

岐阜大学地域科学部基金のご協力とお願い

URL : <http://www.rs.gifu-u.ac.jp/newsttopics/2020/11/13/post-61.html>

岐阜大学地域科学部 学部長 内田 勝

進路状況

学部進路

2021年度卒業生進路状況(2022年5月1日現在: カッコ内は人数で1名の場合は省略)

公務員(40)

厚生労働省(3) 中津川市
国土交通省 関市(2)
財務省(4) 美濃市
法務省(3) 山県市
岐阜県(6) 名古屋市
愛知県 あま市
岐阜県警察(2) 刈谷市(2)
岐阜市(3) 弥富市
各務原市(3) 常滑市
大垣市 浜松市
瑞穂市

建設・製造業(15)

(株)アッシュホーム
日産工業(株)
名工建設(株)
(株)STIフードホールディングス
(株)長坂養蜂場
(株)ソトー
(株)ハーモニック
高桑美術印刷(株)
西濃印刷(株)
リファインホールディングス(株)
京セラインダストリアルツールズ(株)
三菱商事テクノス(株)
(株)アイシン
(株)豊田自動織機ITソリューションズ
ドリームデザイン(株)

情報通信(8)

(株)アシストプラス
(株)インフォファーム(2)
(株)セイノー情報サービス
(株)メイテックコム
(株)リード
アビームシステムズ(株)
イーテクノロジー(株)

卸・小売業(15)

(株)兼松KGG
(株)西部管商
(株)八神製作所
(合)西孝
だるまミート(株)
ミクニ電機(株)
教育産業(株)
住友商事マシネックス(株)
新日本ファスナー(株)
豊通オートモーティブクリエーション(株)
(株)サンドラッグ
(株)パロー
Genky DrugStores(株)
トヨタカローラ岐阜(株)
マックスバリュ東海(株)

金融・保険業(8)

(株)十六銀行(2)
いちい信用金庫
岐阜県信用保証協会
岐阜信用金庫
日本年金機構
三井住友海上火災保険(株)
明治安田生命保険相互会社

生活関連・娯楽・飲食・宿泊業(3)

(株)星野リゾート
(株)トーカイ
(株)日本ケアサブライ

専門技術サービス業(1)

特許業務法人 オンダ国際特許事務所

複合サービス業(1)

岐阜県農業協同組合中央会

農業・林業(1)

暮らすファームSunpo

運輸業(1)

旭運輸(株)

教育・医療・福祉業(7)

ごとう歯科
日本赤十字社岐阜支部
山梨厚生病院
(株)FPO
(有)壮優館
ケアシステム(株)
社会福祉法人桜友会

電気・ガス・水道業(2)

シン・エナジー(株)
中部電力パワーグリッド(株)

進学(3)

岐阜大学地域科学研究科
京都大学大学院
大阪大学大学院

卒業生数	110	その他	2
就職希望者数	105	就職率	97.14%
就職決定者数	102	(就職決定者数÷就職希望者数)	
進学者数	3		
進路未定者数	3		

研究科進路

2021年度修士進路状況(2022年5月1日現在: カッコ内は人数で1名の場合は省略)

卸・小売業(3)

光通信システム(株) 合同会社夸父
三神合同会社

製造業(1)

中央発條(株)

進学(1)

千葉大学大学院融合理工研究科

修了生数	10
就職希望者数	5
就職決定者数	4
進学者数	1
進路未定者数	1
その他※	4

就職率 80.00%
(就職決定者数÷就職希望者数)

※1 社会人修士生を含む

会長あいさつ

森の会 会長 あさい あきこ 浅井 彰子

会員の皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。
収束の見通しの立たないコロナ禍にあっても、それぞれ
の場でご活躍のことと思います。

そして、厳しい環境での学びを経て、今春、ご卒業・ご
修了された新正会員の皆さま、まことにおめでとうござい
ます。祝う会が開催されなかったため直接お伝えする機会
が失われましたが、同窓会あげて心からお祝い申し上げます。
2021年度の大学卒業、大学院修了、合わせて118
名の皆さまを正会員として同窓会にお迎えできて、大変嬉
しく思います。

現在、森の会の正会員は総勢 2,762 名。岐阜大学の他

学部と同窓会に比べますと小さな組織ではありますが、会
員の皆さまお一人おひとりが個性豊かに彩ってくださって
います。

森の会の事務局は、長年担ってくださってきた羽賀さん
から川口さんにバトンタッチされました。羽賀さんに深い
感謝の意を表します。そして、川口さん、お世話になりま
すが、どうぞよろしく願います。

今年は感染状況を鑑み、総会・親睦会の開催を断念いた
しました。皆さまにお目にかかるチャンスは来年以降に持
ち越しとなりました。それまで、どうぞお健やかに、爽や
かにお過ごしください。ご活躍を祈念申し上げます。

2022年度 森の会役員

会 長／浅井 彰子①
副会長／浅野 善信① 都築 尚子①
幹事長／伊藤 健人③
幹 事／伊藤 雅浩① 小澤和歌子① 眞鍋 陽子① 後藤 祐治③ 笠原 正博⑩ 平野 純里⑪
藤井 敬子① 野村 惇貴⑫ 小塩 里予⑭ 西野 公美⑭ 伊藤 未有⑮ 森 佳奈⑯
会 計／荒瀬 修三③ 岩田 茉奈⑯
監 査／祖父江利佳① 川脇沙也佳⑱
(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 2,762名
(2022年4月1日現在)

事務局より事務員交代のご挨拶

「ご縁をありがとうございました」

(前) 事務員 は が しゅうこ 羽賀 修子

平成25年から9年間、地域科学部同窓会で大変お世話になりました。諸行事に関わらせていただく中
で、同窓会の役員の方をはじめ同窓生の皆さん、地域科学部の教職員の皆さん、講師の先生方、講演
会・総会の会場のスタッフさん、銀行や印刷業者さん、本当にたくさんの皆さんに支えていただきました。
そのおかげさまで何とか同窓会事務局の仕事を続けることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

いろんなお話をさせていただく内に、同じ趣味があったり、共通の知り合いがいたり、出身地が同じだっ
たりして不思議なご縁を感じることも多くありました。今後は、地域科学部同窓会の行事ではもちろんですが、どこかで皆
さんとばったり再会できるご縁があるのではないかと思います。とても楽しみです。

同窓生の皆さんも、不思議なご縁が同窓会にあるかもしれません。総会・懇親会に顔を出してみませんか。
ありがとうございました。

「どうぞよろしくお願いいたします」

(現) 事務員 かわぐち たえこ 川口 妙子

今年3月に岐阜大学教育学部学務係を退職して、地域科学部後援会と同窓会の事務局でお世話になる
ことになりました。同じ大学の中ではありますが地域科学部のことは全く知りませんので、前任者の羽賀
さんのようにはいかないと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。
連絡先等に変更があった場合は、メールにてご連絡ください。

連絡先

森の会 (岐阜大学地域科学部同窓会)
〒501-1193
岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
TEL : 058-293-3021 FAX : 058-293-3008
E-mail : mori2001@gifu-u.ac.jp
森の会ホームページ <http://www.rs.gifu-u.ac.jp/alumni.html>
事務局業務日(火・水・金 9:00~15:00)



森の会
メールアドレスに
簡単にアクセス
できます

